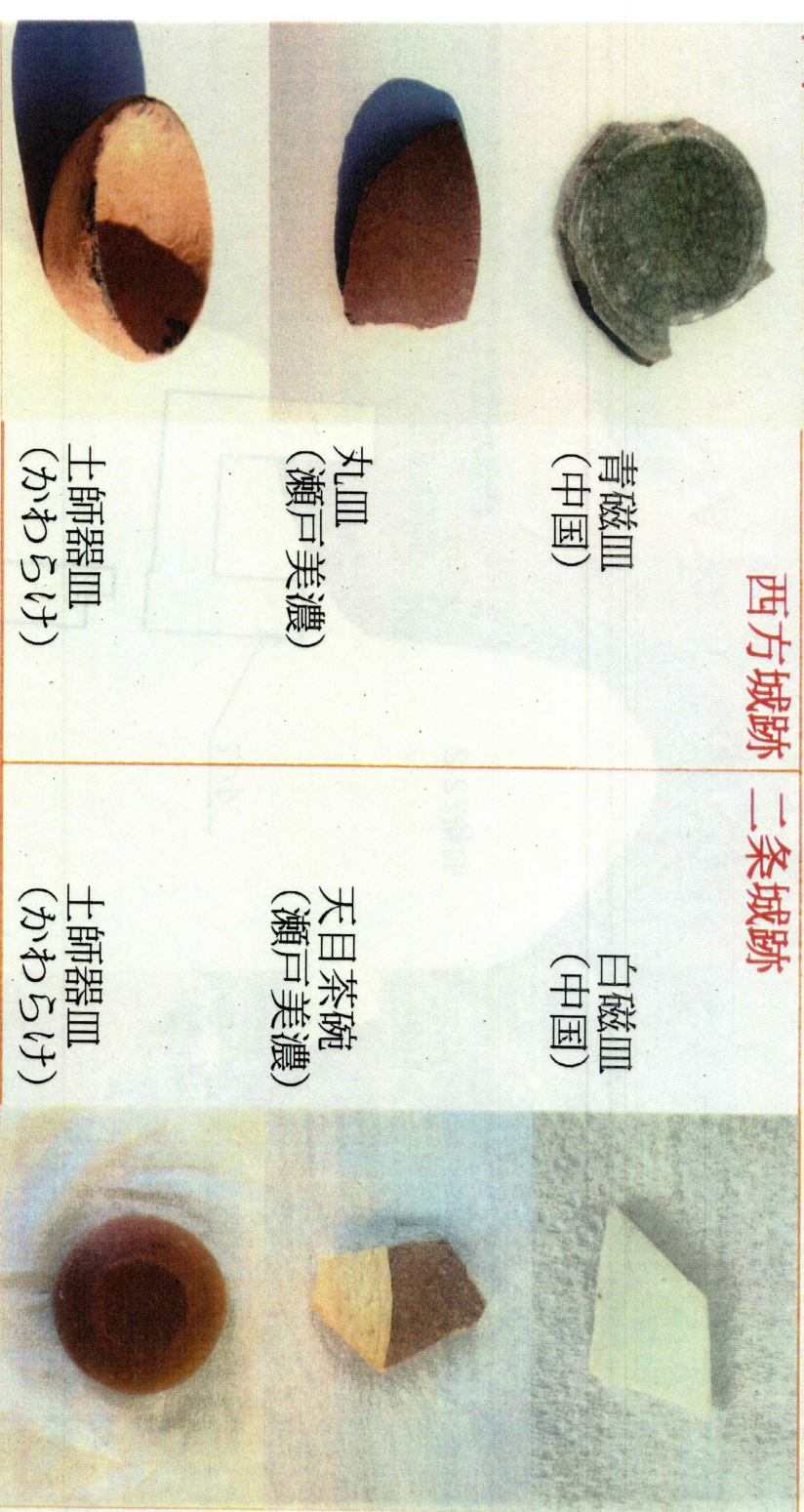


× 発掘して出てきたもの (出土遺物) ※縮尺不同



青磁皿
(中国)

白磁皿
(中国)

丸皿
(瀬戸美濃)

天目茶碗
(瀬戸美濃)

土師器皿
(かわらけ)

土師器皿
(かわらけ)

× わかったこと、わからなかったこと

西方城跡

土塁の石積み

土塁 (侵入防止の土壁) の内側の端に、石積みをしていました。ただけでなく、石を利用し、計画的に土塁を造っていました。これまで戦国時代の山城として知られていましたが、より新しい時代に改修されていたことが分かりました。詳しい年代は今後の課題です。

曲輪の造り方

丘陵を大きく削り、削った土を東西に盛って曲輪 (城の中にある平坦地) を造っていました。自然地形を大きく改変し、大規模な土木工事で城を造ったことが分かりました。曲輪を造った土の中から、15世紀頃のものが見つかっています。

二条城跡

登城ルート

南端に城の中を通行する通路が見つかりました。調査した曲輪の南を通り、お城の中心部に行く登城ルートが推定できます。

計画的な排水

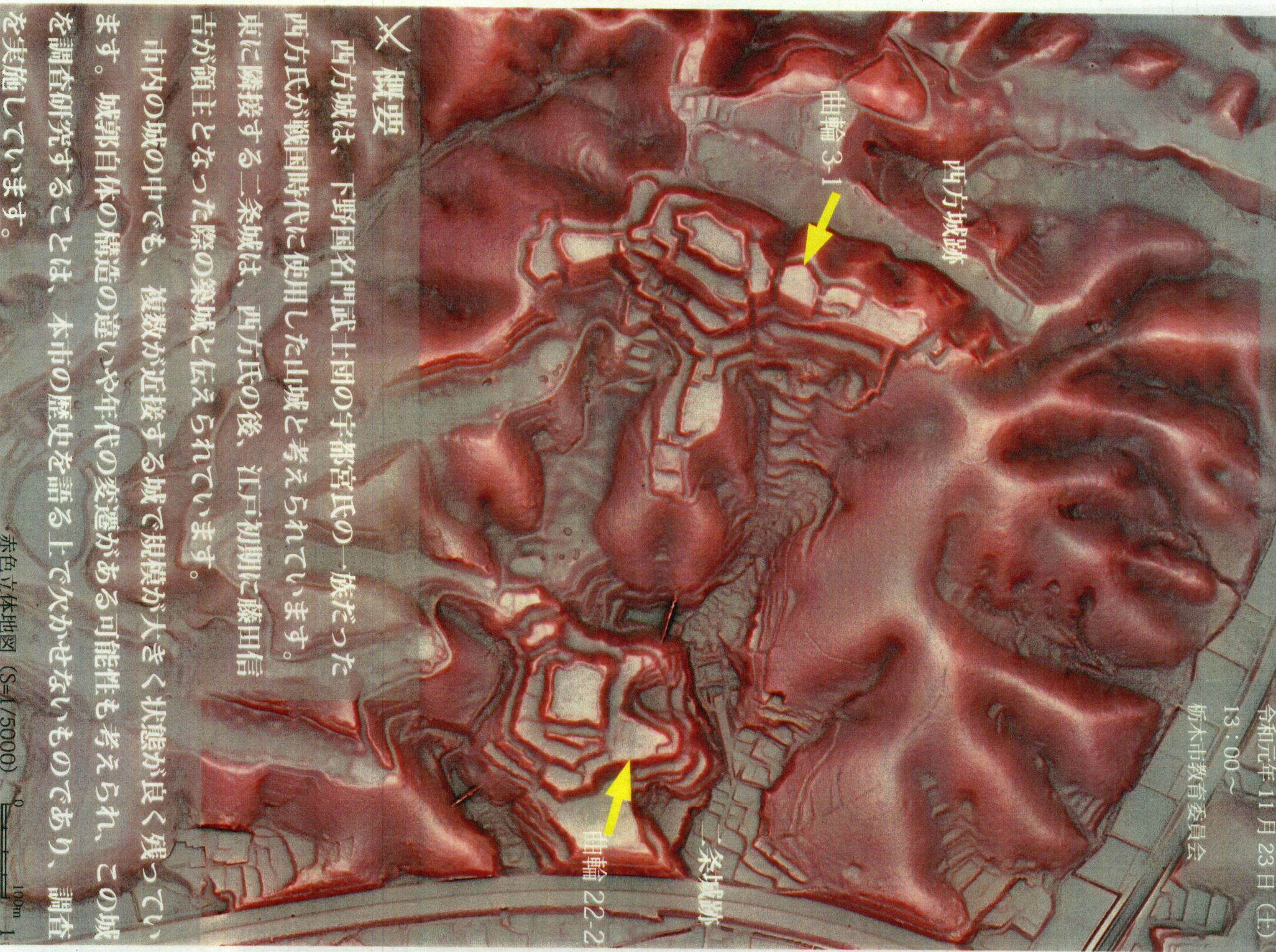
通路際の溝や石組みの暗渠など、排水に関連する遺構が見つかりました。軍事利用だけでなく、計画的な土地利用を意図した城であったことがわかりました。

西方城跡、二条城跡発掘調査現地説明会資料

令和元年 11月23日 (土)

13:00~

栃本市教育委員会



× 概要

西方城は、下野国名門武士団の宇都宮氏の一族だった西方氏が戦国時代に使用した山城と考えられています。東に隣接する二条城は、西方氏の後、江戸初期に藤田信吉が領主となった際の築城と伝えられています。市内の城の中でも、複数が近接する城で規模が大きく状態が良く残っています。城郭自体の構造の違いや年代の変遷がある可能性も考えられ、この城を調査研究することは、本市の歴史を語る上で欠かせないものであり、調査を実施しています。

西方城跡 (曲輪 3-1)

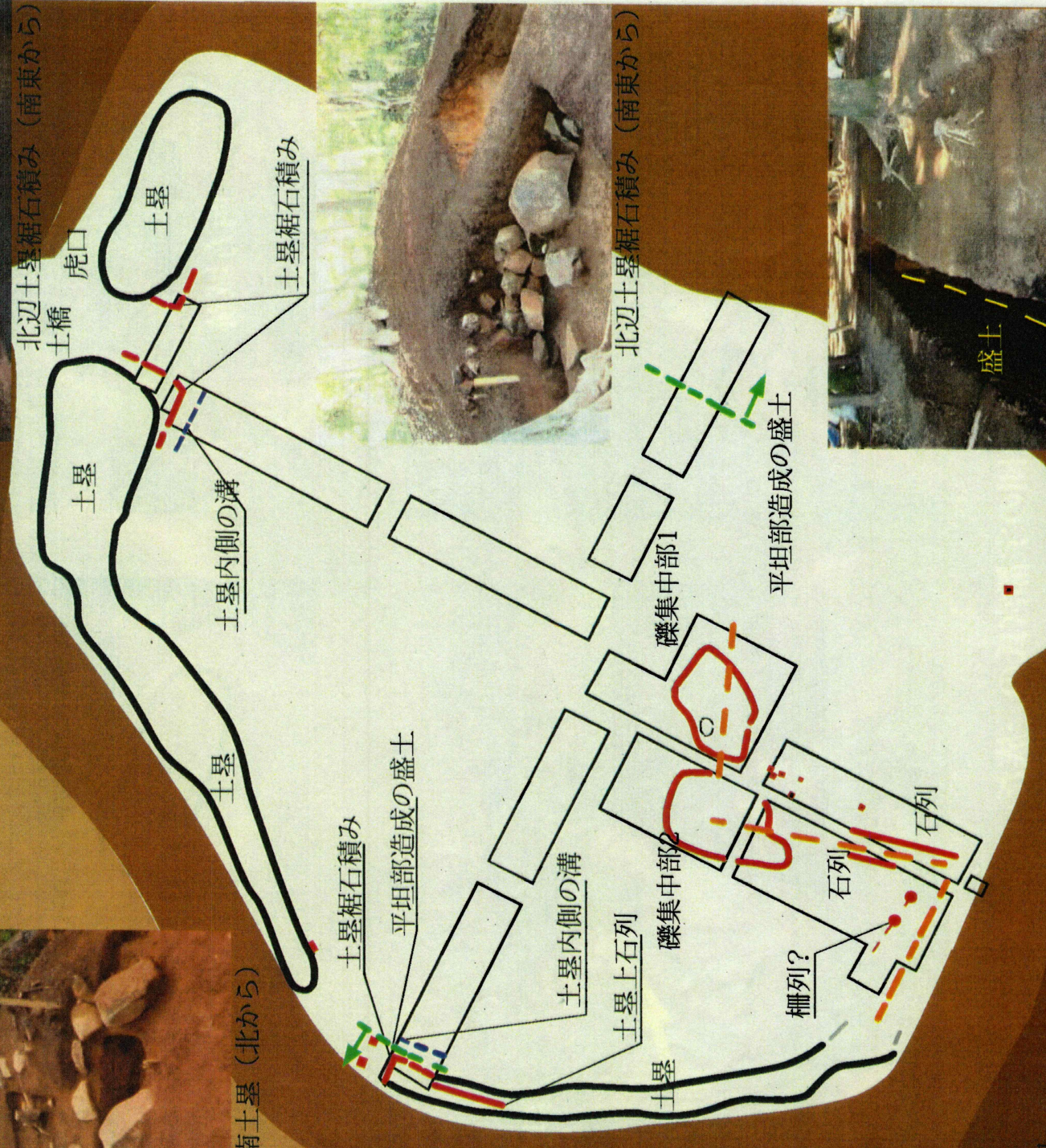
曲輪2-1



西辺南土塁 (北から)

曲輪2-4

堀切



北辺土塁裾石積み (南東から)

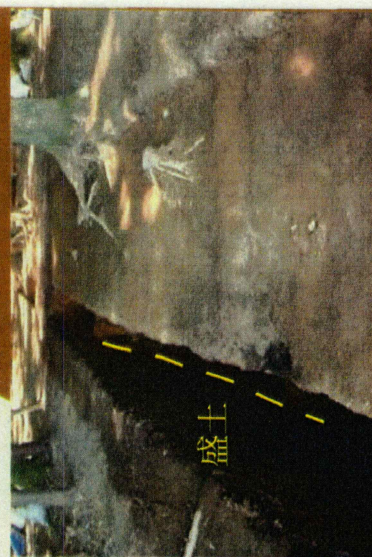
土橋
虎口

土塁

土塁裾石積み

北辺土塁裾石積み (南東から)

平坦部造成の盛土



平坦部造成の盛土 (東から)



平行する石列 (北西から)

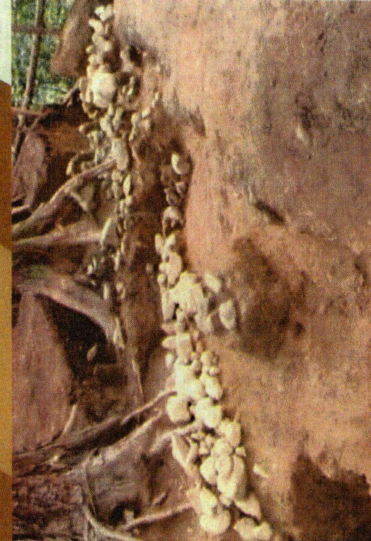
礫集中部1・2 (南西から)

0 5m (S-17/250) 2

二条城跡 (曲輪 22-2, 25-2)



土塁内の排水施設? (東から)



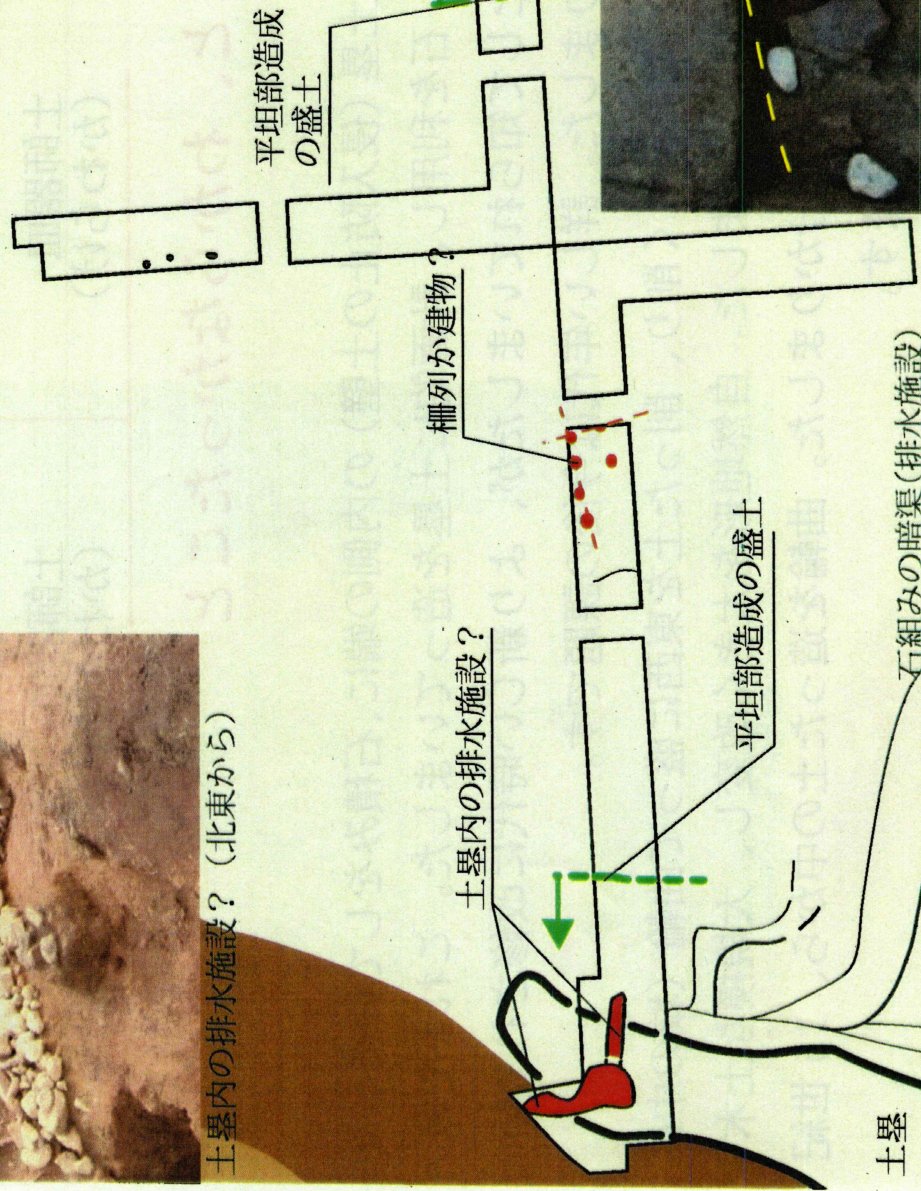
土塁内の排水施設? (北東から)

曲輪22-2

柵列か建物? 穴の一部 (南から)

曲輪25-2

小穴



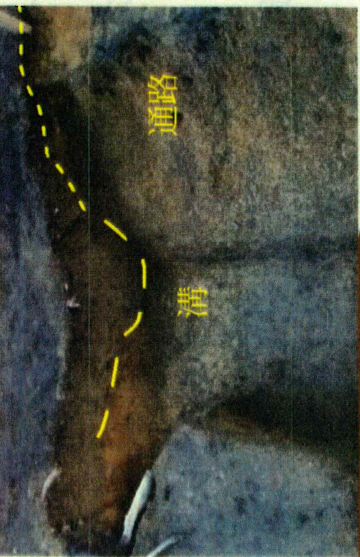
土塁内の排水施設?

平坦部造成の盛土

土塁

石組みの暗渠 (排水施設)

石組の暗渠 (排水施設) (南から)



通路
溝

通路と通路際の溝 (西から)

0 5m (S-17/250) 3